

【今回の審議のポイント】

- 景観づくりの基礎（第1章）に関して、景観づくりの基本的な考え方についてご意見いただきたい
- 横浜の地域ごとの景観のとらえ方・表現についてご意見いただきたい

横浜市景観ビジョン（改定）

『横浜らしい豊かな風景をつくる』

今回の主な審議範囲

第1章 景観づくりの基礎

みんなで共有する景観づくりの基本的な考え方

- 1 景観ビジョンとは
- 2 景観づくりのとらえ方
- 3 景観づくりの姿勢
- 4 地域ごとの景観の特徴

今回・3月審議会の審議範囲

第2章 景観づくりの方向性

地域ごとの景観づくりで考慮すべきことから（目標）

- 臨海部（工業地）
- 都心臨海部
- 高密度な既成市街地
- 郊外駅前および周辺
- 郊外住宅地
- 緑と農のある郊外

前回の主な審議事項

第3章 景観づくりの取組方針

行政が取り組む景観づくりの方針

- 1 対話と協議による景観づくり
- 2 規制と誘導による景観づくり
- 3 景観づくりに係わる事業と調整
- 4 景観づくりの普及と協働

今回・3月審議会の審議範囲

実践編 景観づくりの方法

景観づくりに取り組む際の基本的な進め方

- 1 景観づくりの流れ
- 2 景観を想い描くキーワード

横浜市景観ビジョンの改定について

第 1 3 回 横浜市都市美対策審議会 政策検討部会 H29.01.27

- 1. 改定趣旨・進め方
- 2. 改定方針（案）
- 3. 景観ビジョン改定素案（案）
 - ・景観づくりの基本的な考え方
 - ・全体構成イメージ
- 4. 地域ごとの景観の特徴の把握

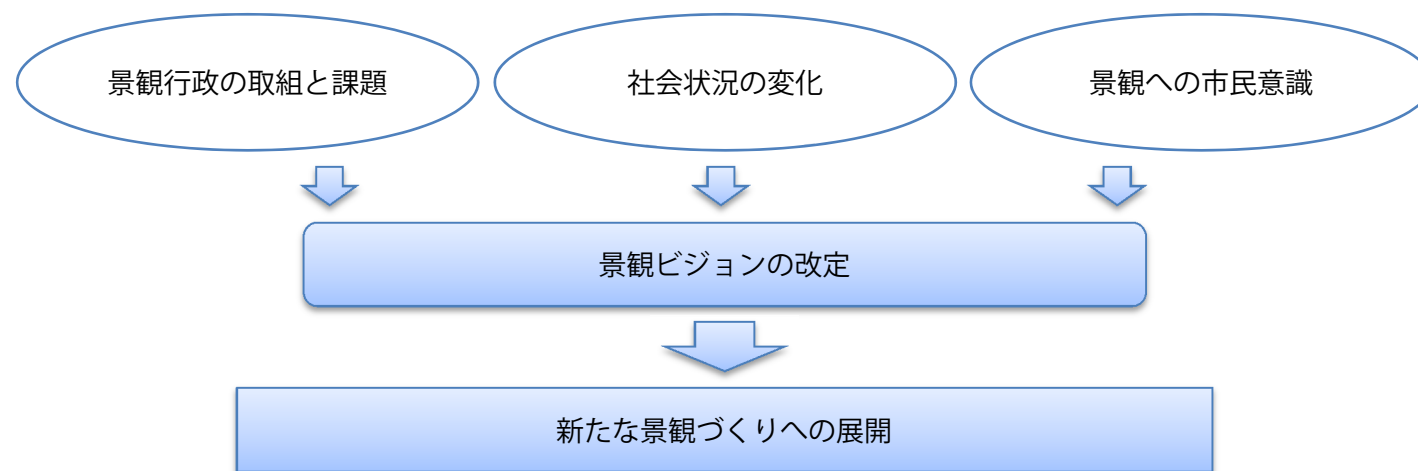
■改定趣旨

横浜市景観ビジョンは、「横浜らしい都市景観形成制度のあり方について」答申（横浜市都市美対策審議会）を受け、平成 18 年 12 月に策定された。当時制定された景観法および景観条例を運用することを目的に、本市の景観づくりの長期的な方向性を定めている。

景観ビジョンは本市の分野別計画として景観に係わる施策・取組の基本方針となるものであり、景観計画等の拠り所となる考え方として欠かすことのできないビジョンである。また、景観づくりは市民・事業者・行政の協働による個々の取組の積み重ねで進められるものであることから、基本的な考え方等を共有してより良い景観づくりに取り組むために景観ビジョンが活用されることが重要となる。

本ビジョン策定から約 10 年が経ち、横浜においても人口構成の変化などが進むことから、集約・再生型の社会状況にあわせた景観づくりの推進が必要となっている。一方、市民や事業者の創意工夫を活かしたより身近な景観づくりが重要になっており、これを推進していくことが求められている。こうした変化に対応していくため、景観ビジョンの改定を行う。

景観ビジョンの改定にあたっては、これまでの景観行政の取組と課題を検証しつつ、社会状況の変化にともなう景観づくりへの要請をふまえて検討を進めていく。また、景観に対する市民意識も確認しつつ、そのニーズをふまえながら景観づくりの基本的な方針を定めていく。



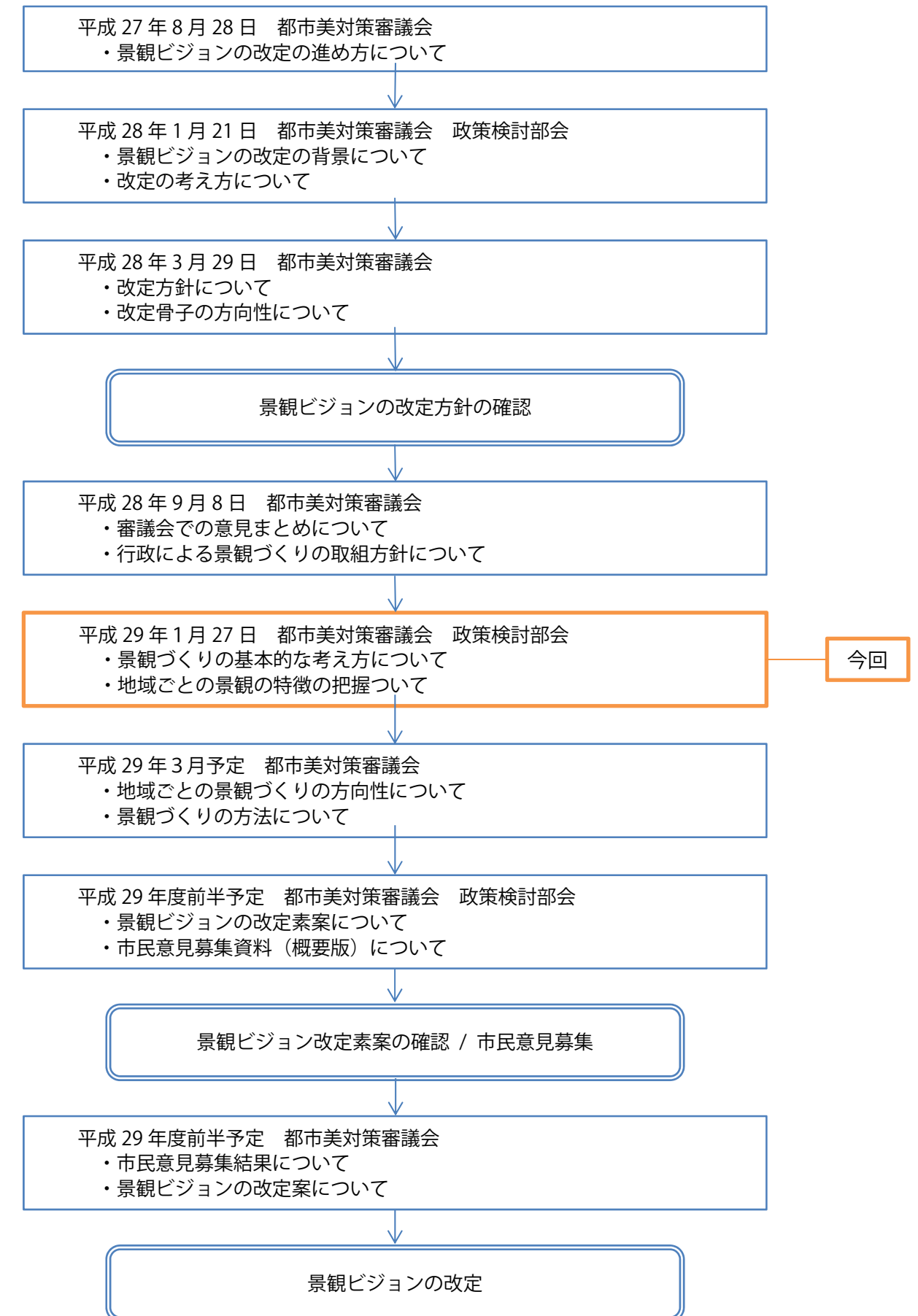
■改定スケジュール（予定）

H27 年度：基礎調査、改定方針・骨子作成、審議会検討
 H28 年度：市民意識調査、改定素案作成、冊子等デザイン、審議会検討
 H29 年度：市民意見募集、審議会検討、印刷・発信等

■改定の進め方

- (1) 横浜市都市美対策審議会（政策検討部会）
改定作業の要所で本会および政策検討部会において審議を行う。
- (2) 庁内検討
景観計画等の担当課を中心に随時検討会を行う。また、内容により各区役所、事業担当課との調整を行う。
- (3) 市民意識の把握
景観づくりへのニーズや課題を把握するためのヒアリング・アンケート等を行う。また、素案作成段階で市民意見募集を行う。
- (4) 景観ビジョンの発信
改定景観ビジョンの確定前から、景観に係わるワークショップなどを行うことを検討する。

■横浜市都市美対策審議会での検討スケジュール



基本情報	計画名称：横浜市景観ビジョン	
	策定年度：平成18年度（当初策定）、平成29年度（改定予定）	
	所管課：都市整備局都市デザイン室	
	関連制度：景観法、横浜市魅力ある都市景観の創造に関する条例（景観条例）	
改定概要	【改定の背景】	
	景観ビジョン策定から約10年が経ち、横浜においても人口構成の変化などが進むことから、集約・再生型の社会状況にあわせた景観づくりの推進が必要となっている。一方、市民や事業者の創意工夫を活かしたより身近な景観づくりが重要になっており、これを推進していくことが求められている。こうした変化に対応していくため、景観ビジョンの改定を行う。	
	【検討の枠組み】	
	景観ビジョンの改定にあたっては、これまでの景観行政の取組と課題を検証しつつ、社会状況の変化にともなう景観づくりへの要請をふまえて検討を進めていく。また、景観に対する市民意識も確認しつつ、そのニーズをふまえながら景観づくりの基本的な方針を定めていく。	
	【改定のポイント】	
	○対話・協議と規制・誘導のバランスによる創造性と実効性のある景観づくり ○今後の急激な景観の変化に対応した、都市の持続的な価値向上に資する戦略的な景観づくり ○個々の主体的な取組による地域の特性に応じたきめ細やかな景観づくり	
	【活用する主な場面】	
	○事業や施策を計画するとき ○みんなで対話や協議をするとき ○地域で身近な取組を始めるとき ○地域のルールをつくるとき	
項目立て	現行	改定（案）
	第1章 景観ビジョンについて 1 景観ビジョンとは 2 策定の背景 3 「景観」の示す範囲 4 景観形成の意義 5 市民、事業者、行政の役割 6 景観ビジョンの内容 第2章 前提となる基本条件 1 景観をめぐる市民意識 2 景観を考える手がかり 3 景観をめぐる制度 第3章 景観形成の方向性 1 景観形成に取り組む姿勢 2 テーマごとの景観形成の方向性 3 地区ごとの個性的・魅力的な景観形成の方向性 第4章 景観形成に関する行政の主な取組 1 規制・誘導 2 景観形成に関する事業の実施と調整 3 良好な景観形成を支える市民意識等の醸成 巻末資料 1：「（仮称）横浜市景観ビジョン検討会」による16の着眼 2：横浜市の景観制度と景観ビジョン 3：「横浜市景観ビジョン」の策定の経緯 4：横浜市都市美対策審議会、（仮称）横浜市景観ビジョン検討会名簿	第1章 景観づくりの基礎 1 景観ビジョンとは 2 景観づくりの意義 3 景観づくりの姿勢 4 地域ごとの景観の特徴 第2章 景観づくりの方向性 ■臨海部（工業地） ■都心臨海部 ■高密度な既存市街地 ■郊外駅前および周辺 ■郊外住宅地 ■緑と農のある郊外 第3章 景観づくりの取組方針 1 対話と協議による景観づくり 2 規制と誘導による景観づくり 3 景観づくりに係わる事業と調整 4 景観づくりの普及と協働 実践編 景観づくりの方法 1 景観づくりの流れ 心地よい環境をつくる／地域の歴史を継承する／地域課題を解決する／地域固有の資源を活かす／コミュニティを育む／誇りと愛着を醸成する 2 景観を想い描くキーワード 空間／営み／感性 資料集 1 景観づくりを支えるしくみ 2 景観づくりの流れ（行政と取り組む場合） 3 景観づくりめぐる現状分析 4 地域ごとの景観の分析

スケジュール	1年目 (平成27年度)	2年目 (平成28年度)	3年目 (平成29年度)	
	8月 都市美対策審議会	12月 政策検討部会 ヒアリング	3月 都市美対策審議会	9月 都市美対策審議会
市民意見の 把握方法	1月 政策検討部会	1月 政策検討部会 市民意識調査	3月 都市美対策審議会	6月 市民意見募集 政策検討部会
	7月 都市美対策審議会	9月 都市美対策審議会	11月 庁内確認	
関係部署と調整を要する事項	■全般について			都市整備局 景観調整課
	■景観形成ガイドラインについて (景観計画、都市景観協議地区)			都市整備局 都心再生課 都市整備局 みなとみらい21 推進課 港湾局 賑わい振興課
	■地域での景観づくりについて			都市整備局 地域まちづくり課
	■都市美対策審議会について (内容全般の確認について)			政策局 政策課 道路局 企画課 建築局 企画課 港湾局 賑わい振興課 環境創造局 政策課
	■景観づくりの普及・学習について			教育委員会事務局 指導企画課
	■景観による魅力づくりについて			文化観光局 企画課
	■都市計画マスタープラン(地域別構想)との整合および区局連携について			都市整備局 企画課 区役所 区政推進課
	上記のほか、必要に応じて関係各課へヒアリングや個別調整等を行う。			
備考	【景観】 空間(都市基盤や環境など)、営み(人々の生活・活動など)、感性(人々の感情・感覚など)が一体となった場所の姿 ＝歴史や風土、文化や伝統、人々や暮らし、技術や制度などを背景として形づくられ、人が五感を通して感じとる場所の姿			
	【景観づくり】 景観をまもり、そだて、つくっていくこと			
	【景観づくりの意義】 良好な景観づくりが個々・地域に心地よさ・楽しさ／誇り・愛着／潤いのある生活環境／活発な交流／魅力と個性／経済的利益などをもたらす循環が生まれ、持続的な横浜らしい価値がつくられていく			

横浜市景観ビジョン

景観づくりが、横浜を豊かにする

横浜は、異なるものを受け入れ、
新たなものを生み出しながら、
物語のある多様な景観を育んできました。
これが、人と人、人とまちがつながり、
想い想いに暮らすことのできる横浜を支えています。

そうした、生き生きとした暮らしがまちに表れる
魅力と個性あふれる景観は、横浜の大切な財産です。
わたしたちはこの財産を受け継ぎ、横浜の魅力と個性を
まもり、そだて、つくってきています。

そしてこれからも、
わたしたちが住み、働き、訪れる横浜であり続けるために、
個々の暮らしと横浜らしい価値を
豊かにしていく景観づくりを進めていきます。

景観づくりが、横浜を豊かにする

横浜の景観づくりが目指すこと

■身近な景観づくりから始める

景観はわたしたちの日々の暮らしを通してつくられています。魅力と個性のある景観づくりを市民・事業者・行政みんなで実践していくという認識を共有し、それぞれが身近なところから景観づくりを始め、取組の輪をひろげていきます。

■地域の資源を景観づくりに活かす

魅力と個性のある景観は、その場所で積み重ねられたもの・ことや地域の人々の生活・活動が一体となって織りなされるもので、地域固有の資源です。地域資源を活かし、誇りや愛着を育む景観をつくり出していきます。

■景観づくりを対話と協議で進める

今後の社会状況の変化や地域ごとの実情に対応しながらも、景観の質を高めていく着実な取組が大切です。対話・協議を通してその場にあわせた創意工夫を重ね、魅力と個性のある景観づくりを進めていきます。

■質の高い景観づくりを追求する

生き生きとした暮らしが表れるまちの景観こそ、都市横浜の多様な魅力と個性をつくり出しています。特に、大規模な開発や公共事業などでは、横浜のシンボルとなり、市民の誇りや愛着を生み出すよう、質の高い景観づくりを追求していきます。

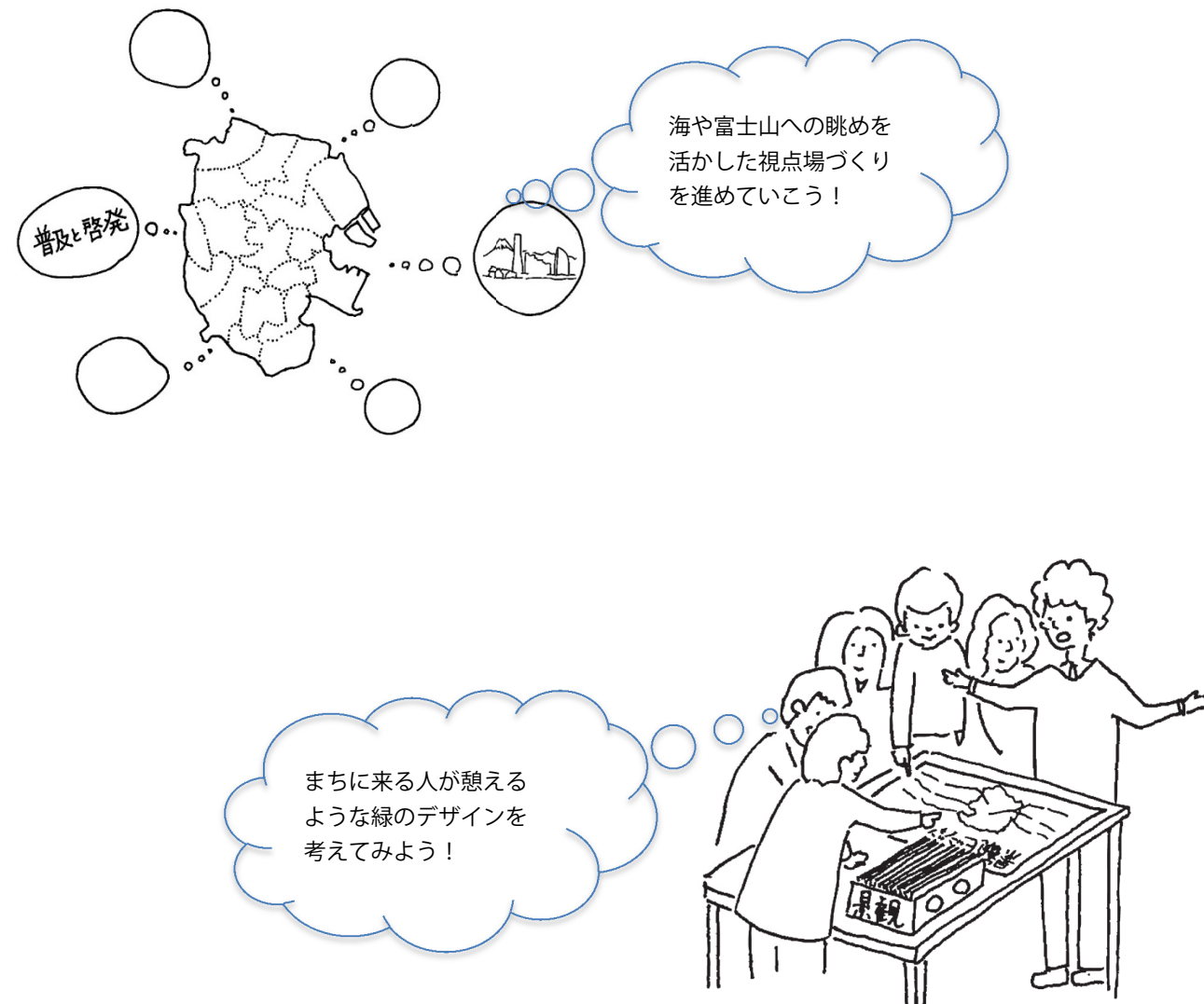
景観ビジョンの使い方

景観ビジョンは、わたしたち市民・事業者・行政のみんなが活用することのできるものです。「身近な景観づくりで何ができるだろう?」「景観づくりってどうやって進めていけばいいの?」「事業（開発）で景観の質を高めていくにはどうしたらいいの?」など、横浜の景観づくりのことを考え、取り組むときに役立つ手がかりがたくさんつまっています。景観づくりで迷ったときにも、またこの景観ビジョンを開いてください。景観ビジョンを道しるべにして、景観づくりを実践していきましょう。

<景観ビジョンを活用する主な場面>

■事業や施策を計画するとき

景観づくりに係わる事業や施策を考える手がかりになります。

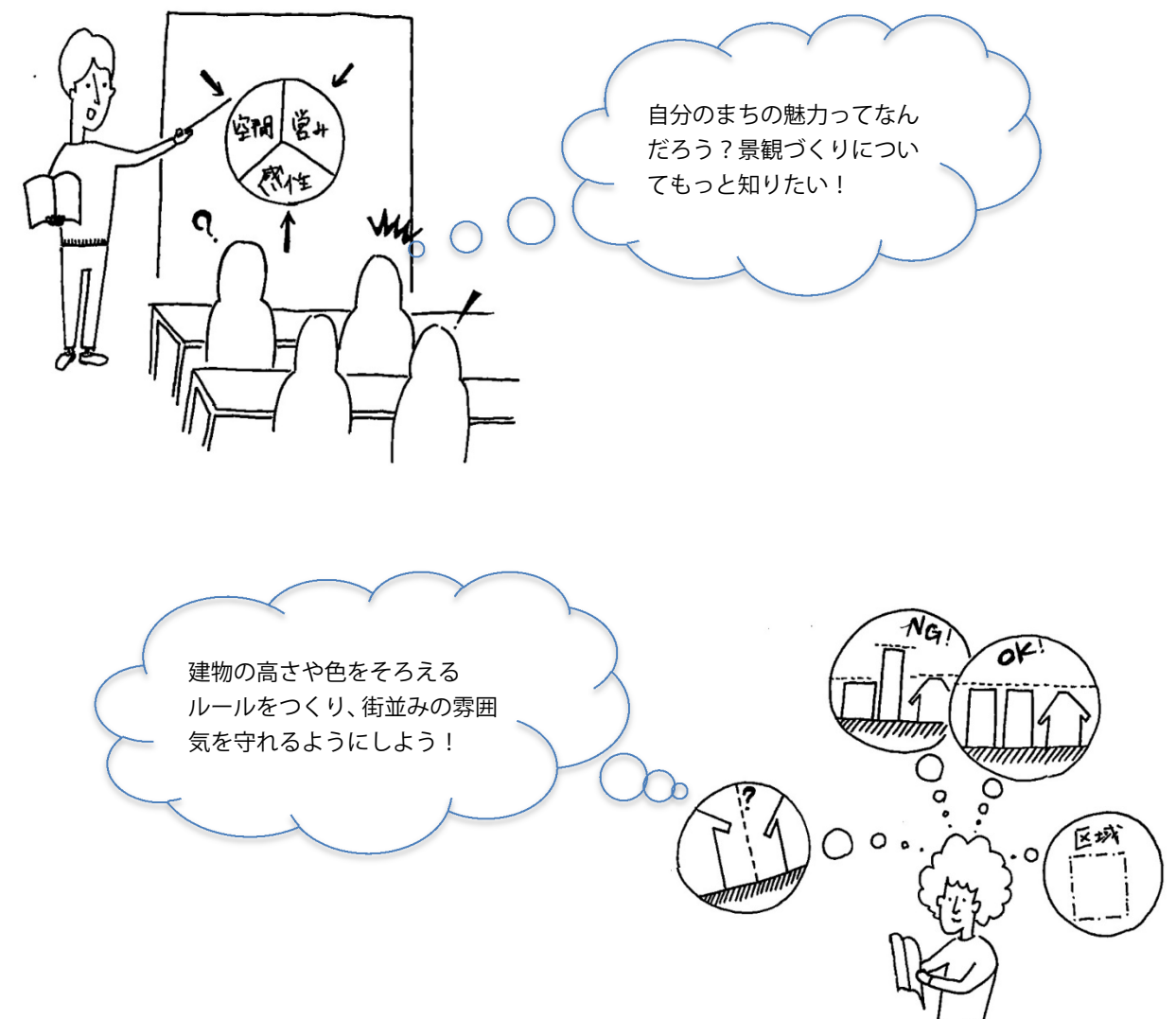


■みんなで対話や協議をするとき

工夫を凝らした景観づくりを話し合うときの手がかりになります。

■地域で身近な取組を始めるとき

身近な景観の特徴や景観づくりの進め方について理解を深める手がかりになります。



■地域のルールをつくるとき

地域ごとの景観づくりに係わるルールを定める手がかりになります。

目次

第1章 景観づくりの基礎－横浜の景観づくりを考える－

- 1 景観ビジョンとは
- 2 景観づくりのとらえ方
- 3 景観づくりの姿勢
- 4 地域ごとの景観の特徴

第2章 景観づくりの方向性－横浜らしい景観をつくる－

- 臨海部（工業地）
- 都心臨海部
- 高密度な既成市街地
- 郊外駅前および周辺
- 郊外住宅地
- 緑と農のある郊外

第3章 景観づくりの取組方針－横浜の景観づくりをひろげる－

- 1 対話と協議による景観づくり
- 2 規制と誘導による景観づくり
- 3 景観づくりに係わる事業と調整
- 4 景観づくりの普及と協働

実践編 景観づくりの方法－横浜の景観づくりに取り組む－

- 1 景観づくりの流れ
 - 心地よい環境をつくる
 - 地域の歴史を継承する
 - 地域課題を解決する
 - 地域固有の資源を活かす
 - コミュニティを育む
 - 誇りと愛着を醸成する
- 2 景観を想い描くキーワード
 - 空間キーワード
 - 営みキーワード
 - 感性キーワード

資料集

- 1 景観づくりを支えるしくみ
 - （1）規制と誘導に係わる制度
 - （2）支援と補助に係わる制度
- 2 景観づくりの流れ（行政と取り組む場合）
 - （1）開発等で行政と景観協議を行うとき
 - （2）地域でルール等を策定・運用するとき
- 3 景観づくりをめぐる現状分析
 - （1）景観行政の取組と課題
 - （2）社会状況の変化への対応
 - （3）景観への市民意識
- 4 地域ごとの景観の分析
 - （1）地域分類の方法
 - （2）景観を考える地域分類図

1

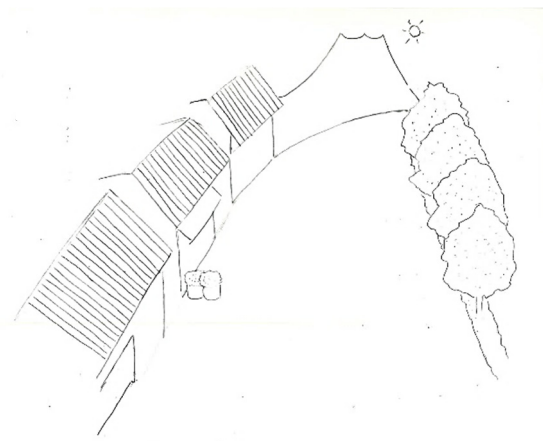
第 1 章

景観づくりの基礎

横浜の景観づくりを考える



||



+



+



【景観】
人が五感を通して感じとる場所の姿
(歴史や風土、文化や伝統、人々や暮らし、
技術や制度などを背景として形づくられる場
所の姿)

【空間】
自然物・人工物などの物的要素により構成され
る都市基盤や環境
例: 建物 街並み 道 広場 駅 港 緑地
海 川 山 など

【営み】
空間において展開される人々の生活・活動
例: 働く 住む 商売 観光 娯楽 清掃
会話 移動 など

【感性】
人々が営みを行う際の動機や欲求、および営み
を通して得られる感情・感覚
例: 働きたい 住みたい 訪れたい 楽しい
うれしい 心地いい 好き 驚き など

1 景観ビジョンとは

- わたしたちが景観づくりを実践するときの手引きとして、景観づくりの指針をとりまとめたものです。

横浜では、開港や震災・戦災、市域の拡大などを経ながら、地域ごとに特徴のある多様な景観がつくられてきました。そうした景観を受け継ぎ、水と緑のまちづくりや歴史を生かしたまちづくりなど、魅力と個性のある景観づくりがなされてきました。こうした取組が横浜らしい豊かな景観につながっています。

そうした中、景観法や景観条例の制定をきっかけとして、景観づくりの方向性を示す景観ビジョンが平成 18 年に策定されました。景観ビジョンは、わたしたち市民・事業者・行政が横浜らしい豊かな景観を目指してともに景観づくりを進めていくことを共有する指針です。また、行政にとっては、横浜市基本構想に即して景観づくりの方針を示す計画となり、景観に関する制度を運用し、市民・事業者と協働して景観づくりに取り組んでいく拠り所になります。

景観ビジョンを定めてから約 10 年が経ち、地域まちづくりの取組がひろがり、景観づくりをより一層充実させていく土壌ができてきました。身近な景観資源を大切にしながら、地域ごとに魅力と個性のある景観づくりを進めていくことが求められています。また一方では、人口減少・少子高齢化やこれにともなう都市構造の変化が起こり、まちの活力の低下や地域コミュニティの希薄化などが生じると、わたしたちの身の回りの景観が大きく悪化する可能性があります。わたしたちが生き生きとした暮らしを送り、横浜を元気にしていき、世界を惹きつける魅力と個性を生み出していくとためにも、景観づくりがますます重要になっています。

こうした状況を背景として、景観ビジョンを改定しました。この景観ビジョンを活用して、横浜らしい豊かな景観づくりを実践していきましょう。

2 景観づくりのとりえ方

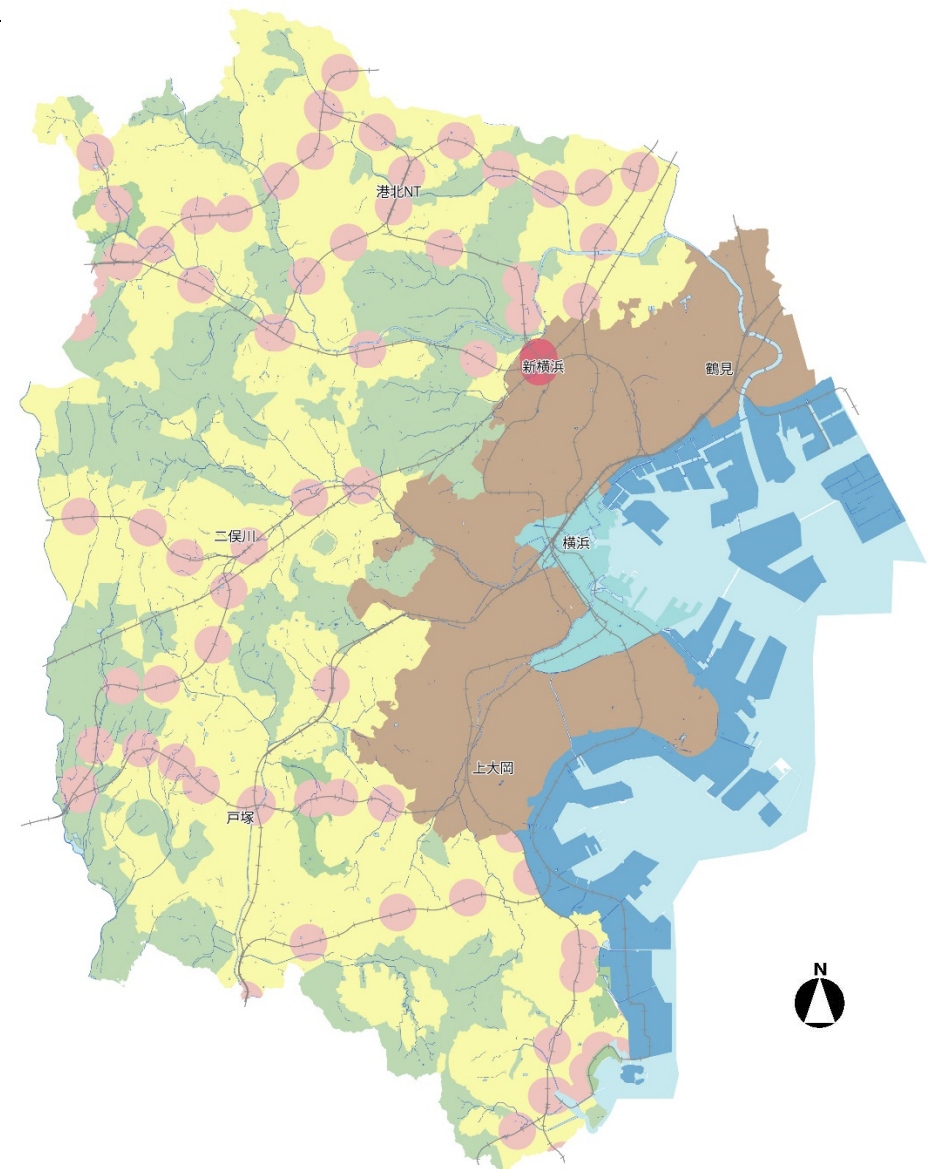
- 個々の暮らしと横浜の豊かさをまもり、そだて、つくっていくことが景観づくりです。

景観づくりは、わたしたちのまちを心地よく・楽しくしていきたい、地域住民の交流やつながりをつくっていききたい、企業の経済的活力も高めていききたいなどの想いを実現し、将来にわたって魅力と個性のある横浜を引き継いでいく、総合的な取組です。良好な景観をつくっていくことで、潤いのある生活環境となっていき、まちに活力が生み出され、ひいてはわたしたちが誇りや愛着をもてる横浜をつくっていくことができます。また、良好な景観をつくることは、多くの人々と協働して継続的な取組をしていくことになることから、地域のコミュニティを育むことにもなります。

このような景観づくりの総合的な性格をふまえて、景観ビジョンでは横浜の景観を「空間」「営み」「感性」の 3 つの着眼点で考えていきます(左の図をご参照ください)。都市基盤や環境などの「空間」に加えて、人々の生活・活動などの「営み」も景観を構成する重要な要素です。さらに、景観を体験することで得られる感情・感覚などの「感性」を豊かにしていくことも、景観づくりで考えていくことが必要なことです。このような、わたしたちが五感を通して感じとる場所の姿を景観としてとらえています。

景観は「空間」「営み」「感性」が長い時間かけて重なりあってできています。景観づくりとして取り組めることは、建物の色や形をととのえたり、地域の素材を使ったりするような「空間」に関するだけでなく、「空間」「営み」「感性」のそれぞれに働きかけて、暮らしや地域、横浜を豊かにしていくことが景観づくりです。

横浜の景観構成図



臨海部（工業地）

海に面して埋め立てにより産業立地が進められてきたところで、工業・物流などの用途を中心に住宅地も混在する地域です。物流・生産機能の再編などの変化にあわせて、スケールの大きさを活かした景観づくりを進めていくことが求められています。

都心臨海部

開港以来、震災・戦災などで大きくまちが変化してきたところで、商業・業務などの様々な機能が高密度に集積している地域です。多様な人々の交流や活力を生み出していく、横浜の顔となる景観づくりが求められています。（●：新横浜都心）

高密度な既成市街地

概ね環状2号線より海側の高度経済成長期以前から市街化が進んでいたところで、下町的な商店街などを中心としながら住宅がひろがる地域です。親密感のあるまちなみや地域活動を継承した、地域に根ざした景観づくりが求められています。

郊外駅前および周辺

郊外部の駅を中心として開発が進められてきたところで、生活を支える商業や業務機能が集積したまちの顔となる地域です。まちへの愛着を深めていくような、地区ごとの特徴を活かした景観づくりが求められています。

郊外住宅地

郊外部の丘陵・台地を計画的に開発してつくられてきたところで、戸建住宅地や集合住宅団地などがひろがる地域です。生活スタイルの変化にあわせた、様々なまちの使い方による身近な景観づくりが求められています。

緑と農のある郊外

高度経済成長期以降の開発から保全されてきたところで、丘陵・台地・河川後背地に面的に緑地や農地がひろがる地域です。身近にある自然環境をまもりながら、緑や農とのふれあいを通じた景観づくりを進めていくことが求められています。

3 景観づくりの姿勢

- 地域ごとの魅力と個性を大切にし、わたしたち市民・事業者・行政が協働して横浜らしい豊かな景観をつくっていきます。

景観は様々な要素で形づくられ、幅広い人々や分野が係わっていくものです。そして、景観づくりの活動や事業には費用や時間がかかるため、大きく改変されたり失われたりした景観は元に戻すことが難しいという性格をもっています。こうしたことから、地域の魅力と個性を共有して、関係者との対話や協議を通じた合意・納得の上で景観づくりを進めていくことが重要です。

対話や協議は、異なる視点で地域を考えるきっかけとなり、景観づくりの質を高める創意工夫を生み出します。また、地域の合意があることで、景観づくりが主体的で持続的な取組となります。この対話と協議を市民・事業者・行政みんなで行っていきながら、地域にふさわしい景観づくりを進めていきます。

特に行政は、景観づくりが活発に取り組まれる状況を目指して、地域にあわせた対話・協議や規制・誘導を実施するとともに、自らの事業や調整においても良好な景観づくりを行っていきます。また、景観づくりの普及と協働を充実させていき、地域とともに身近な景観の魅力と個性を育てていきます。

これらに加え、まちが発展し、都市基盤などがととのった現在では、これまでつちかってきた魅力と個性をより一層活かした、地域課題を解決していく多様な景観づくりを進めていくことが重要です。さらに、横浜の財産をつくり出す新たな景観づくりに挑戦していくことが重要です。

4 地域ごとの景観の特徴

- 地域ごとの歴史や風土、文化や伝統、人々や暮らし、技術や制度などを背景として形づくられてきた多様な景観がひろがっています。

都心臨海部には、にぎわいのある景観やまちなみの魅力を演出した夜景、歴史や異国情緒を感じる景観など、日本を代表する景観があります。身近なところでも、まとまりのある森や農地、ゆとりのある住宅地、下町風情の商店街、古民家等の歴史的な建造物など、心地よさや安らぎをもたらしてくれる多様な景観がひろがっています。

こうした地域ごとの景観を知り、将来を考えていくときには、その場所がもつ景観的な特徴をつかむことが大切です。景観的な特徴は、地形や歴史、都市機能や人々の活動、規制や事業など、過去から現在までの様々な要素が重なりあってつくられてきたものです。この景観ビジョンでは、場所ごとの要素をもとに横浜の景観を大きく6つに分類し、地域の景観を考える手がかりとしています。

左の図のように、横浜ではモザイク状に景観が混ざりあっています。さらにそれぞれの地域で細かく見ていくと地区ごとに様子は異なっています。一方で、幹線道路や鉄道、河川などのように、地域をつなぐ景観要素もあります。このように、多様な景観があること自体が、横浜の景観の特徴といえます。

2

第2章 景観づくりの方向性

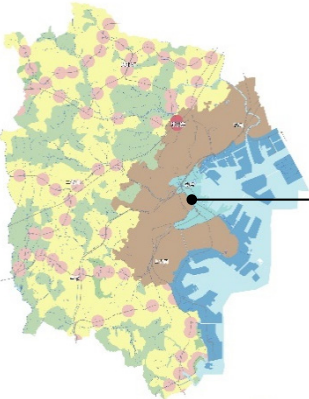
横浜らしい景観をつくる

横浜の景観

横浜には多様な景観がひろがっています。それぞれの景観はひとつひとつ特徴を持ちながらも、海から山まで、都心部から郊外部まで、過去から未来まで、全体としてつながりあっています。地域ごとに魅力と個性を高めていくだけでなく、地域の様々な活動や環境をつないでいくことで、豊かな景観をひろげていくことが大切です。さらに、都市の骨格やシンボルとなる景観づくりを進め、横浜全体の景観的な価値を高めていくことが重要です。

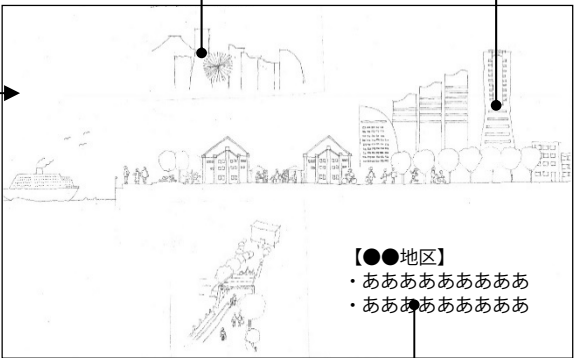
この章では横浜の景観の特徴にあわせて、断面スケッチと目指す景観づくりの方向性を掲載しています。景観構成図は市全体の景観を大まかな構成をつかめるようにしたもので、実際に考えたい場所の景観と必ずしも一致しないこともあります。断面スケッチに描かれた様々な景観から、取り組む場所のイメージに近いページを探して、目指したい景観や身近な景観を考える手がかりとしていきましょう。

<読み方>

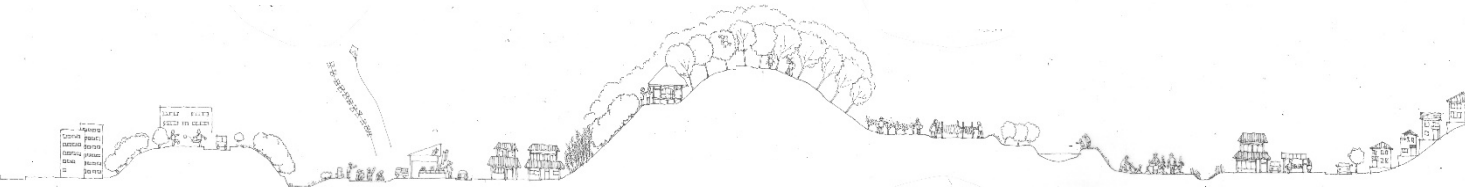
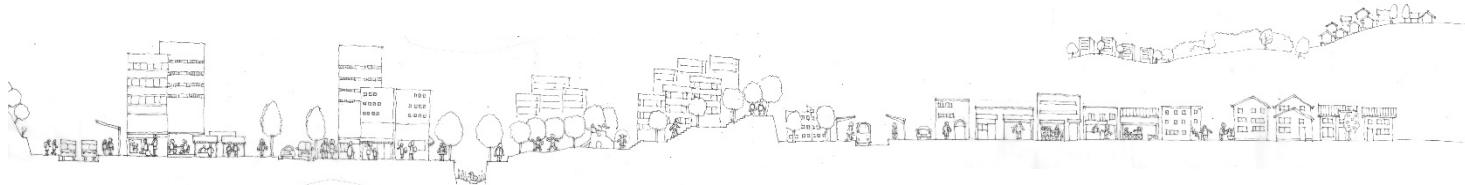
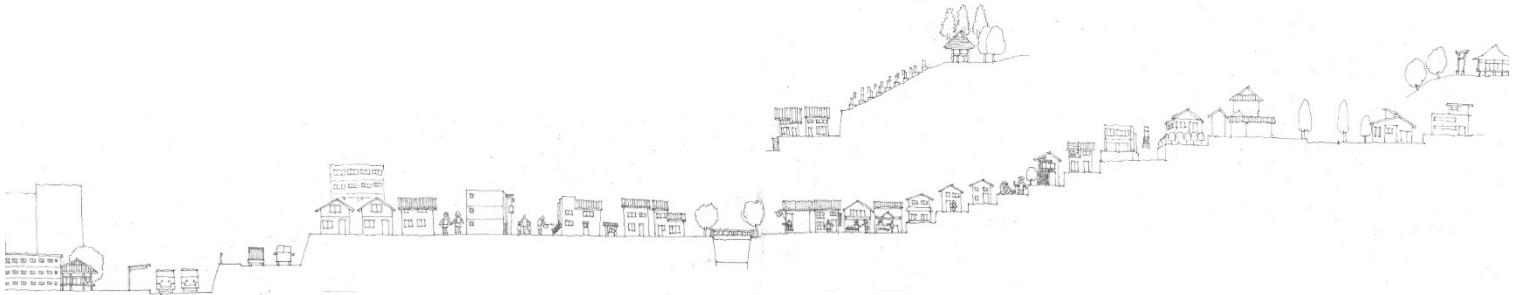
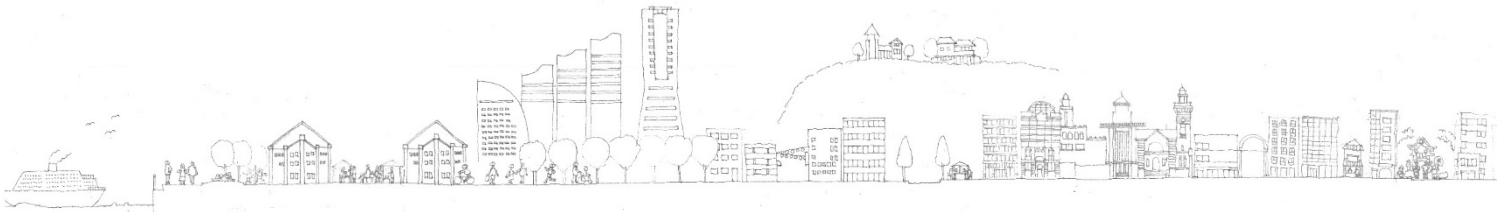
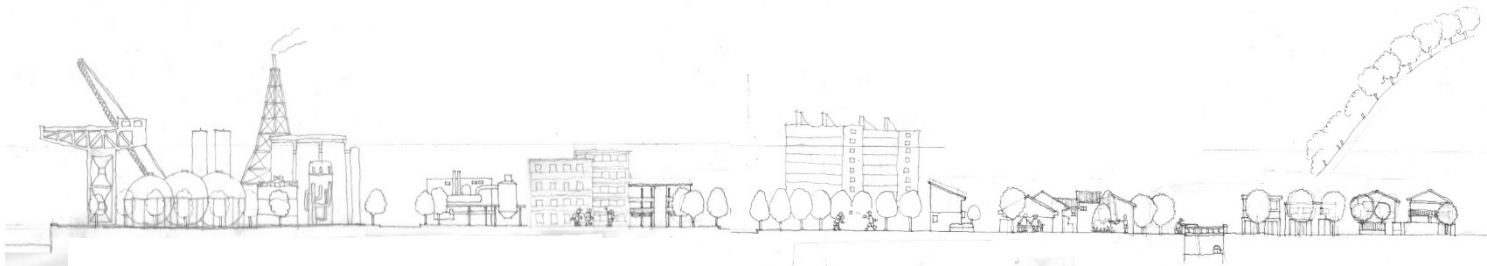


地域に特徴的な
営みや感性の例

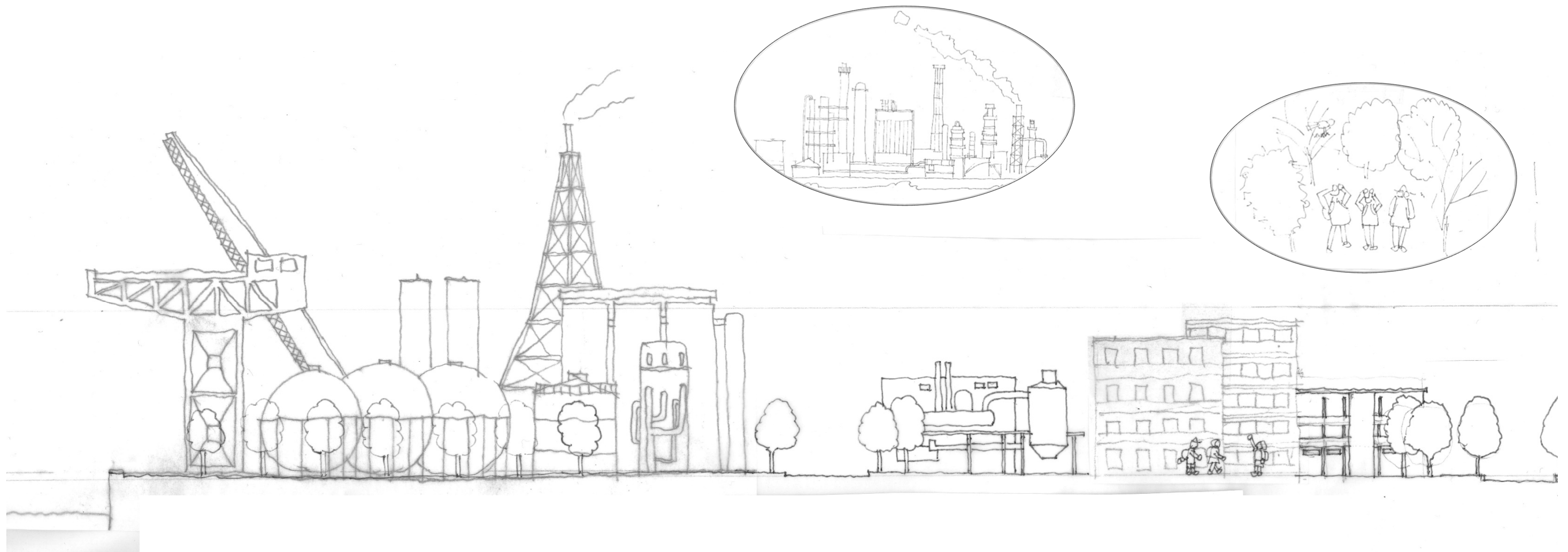
地域を構成する
空間や営みのイメージ



地区ごとの景観づくりで
配慮すること（方向性）



■臨海部（工業地）



【臨海工業・物流地区】

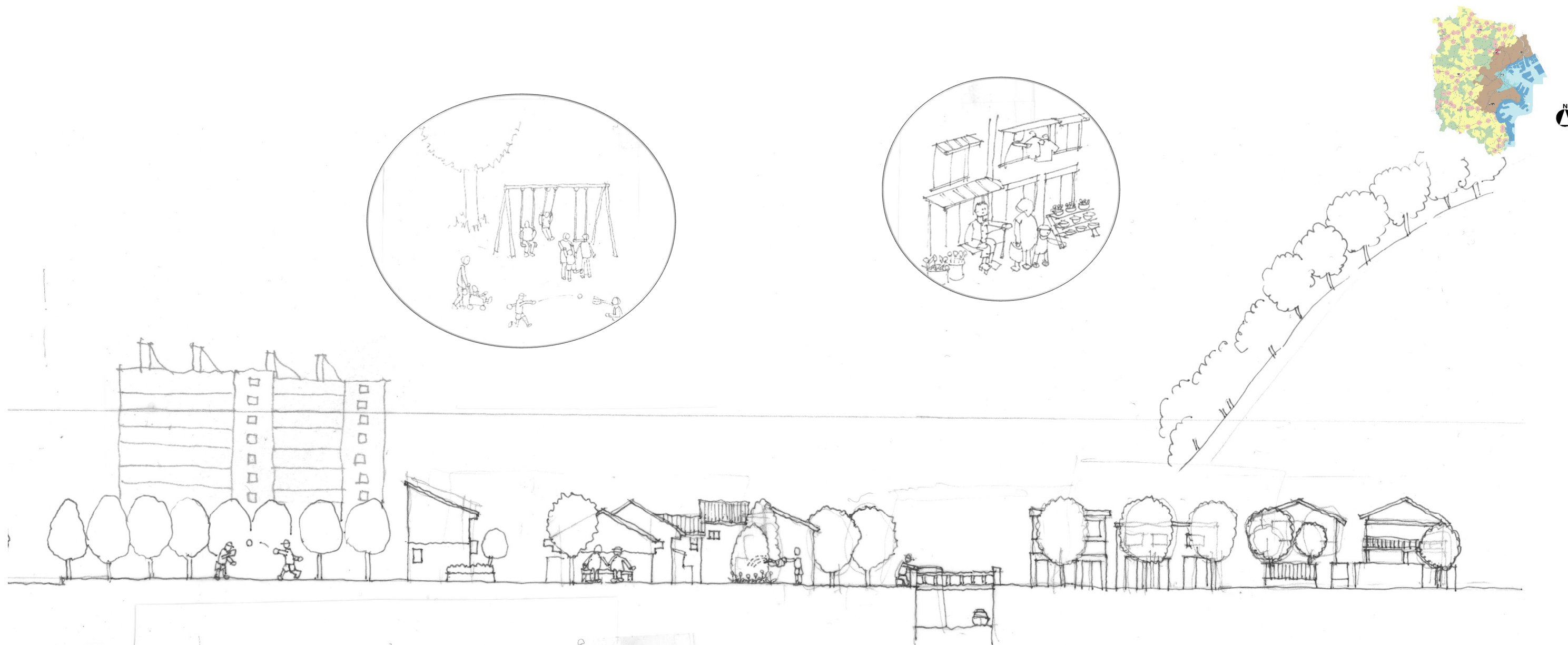
- ・臨海工業・物流地区の産業遺構を景観資源として活用することを目指します。
- ・工業施設が織り成すダイナミックな景観の活用を目指します。
- ・都心臨海部について横浜をイメージさせる代表的な景観とすることを目指します。
- ・船の見える活気のある景観形成を目指します。
- ・海から印象的な市街地が見られるような景観形成を目指します。



【幹線道路沿道】

- ・過度に目立ちすぎる、道路沿いの大型店舗の色彩や屋外広告物について、周辺的环境に配慮された景観形成を目指します。





【商工業・住居などが混在した市街地】

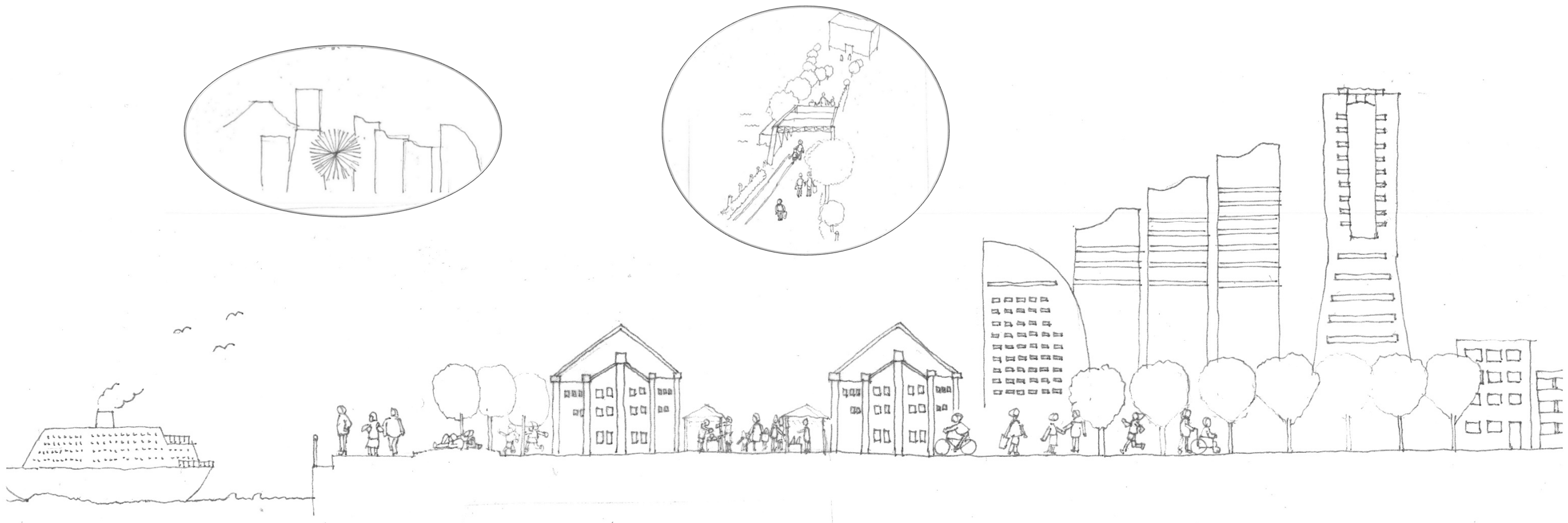
- ・街並みや周辺環境との調和に配慮した建築による景観形成を目指します。
- ・建物等の形態の一部や色相などの統一による、街並みの景観形成を目指します。



【河川】

- ・連続したオープンスペース等を地域資源として生かせるよう、その周辺部を含めて良好な景観形成を目指します。





【横浜駅周辺地区】

- ・横浜の中心的な交通結節点となっている横浜駅の周辺としてふさわしい、風格と賑わいのある景観形成を目指します。

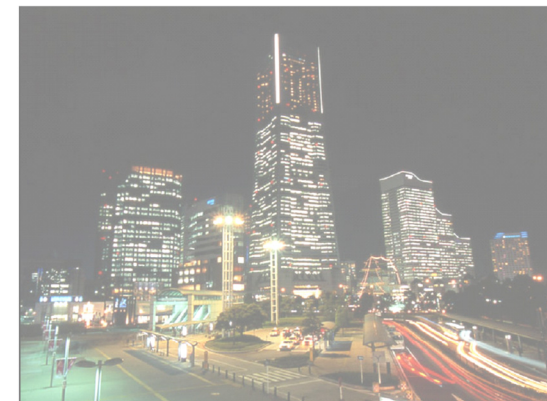


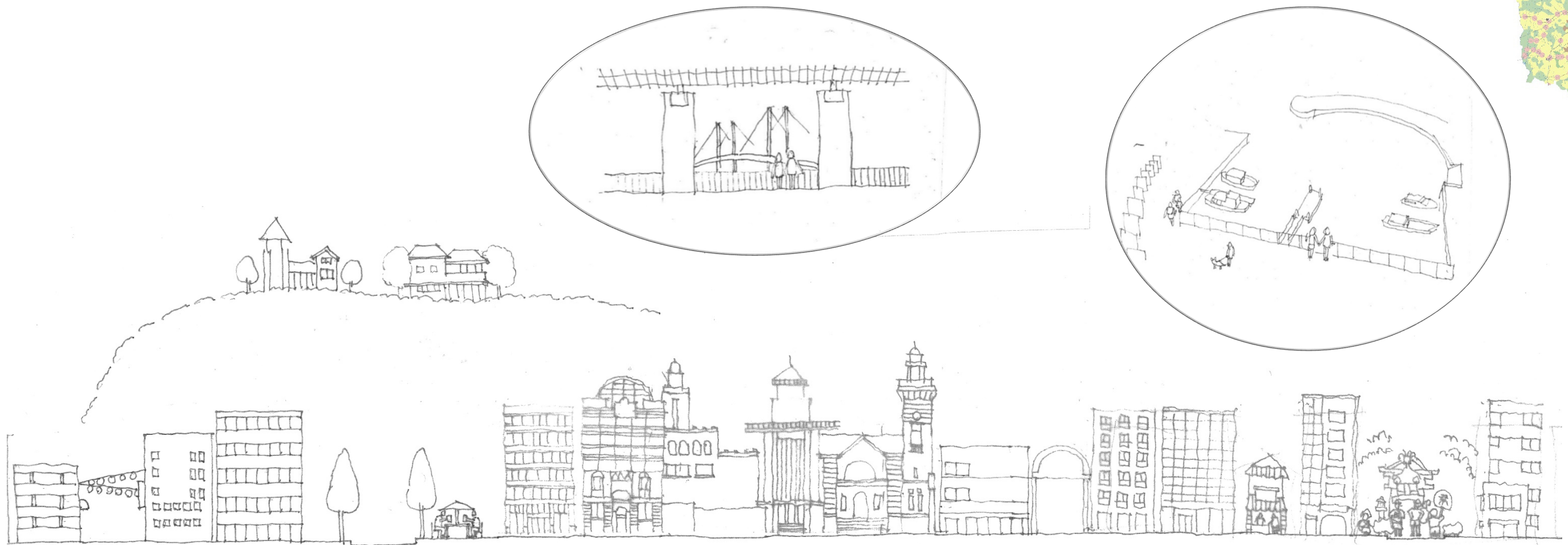
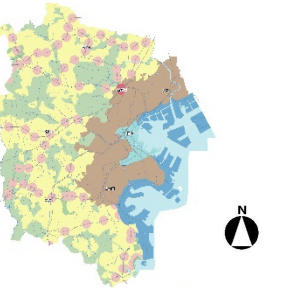
【新横浜駅周辺地区】

- ・新幹線停車駅であり、初めて横浜を訪れる多くの来街者に横浜らしい印象を与えるにふさわしい、品格と賑わいのある景観形成を目指します。
- ・快適な歩行者空間の創出と周囲の緑を生かした景観形成を目指します。

【みなとみらい21地区】

- ・横浜の顔として、中央地区の近未来的なイメージと新港地区の開港の歴史的イメージの対比を生かした景観形成を目指します。
- ・海や周辺地区からの眺望を意識した建物の配置によるスカイラインの形成を目指します。
- ・海に向かって見通しを確保するとともに、各建物の建て方の工夫によって、街の中のどこから海や港が感じられることを目指します。
- ・個々の建築物が過度に主張しあうことのないよう、地区ごとに質感や色彩について調和の取れた景観形成を目指します。
- ・活力ある都市活動を象徴する、夜景の演出を目指します。





【山手地区】

- 海からの眺望の背景となる山手の崖線の緑地を生かした景観形成を目指します。
- 港の見える丘公園などから港への眺望に配慮した景観形成を目指します。
- 居留地時代から継承されてきた、ゆとりある敷地と豊かな緑をもった街並みの継承を目指します。また、地区の特徴的な樹木といえるヒマラヤスギの保全を目指します。
- 西洋館などの歴史的建造物を保全し、歴史を感じられる景観の形成を目指します。
- 西洋館などの特徴的な施設を持つ緑豊かな公園と、それらを結ぶ石畳の山手本通りが醸し出す異国情緒を、ゆっくり歩いて楽しむことができる歩行者空間の形成を目指します。
- 商業施設の立地や屋外広告物の掲出を最小限にとどめ、住環境にも配慮した景観形成を目指します。



【関内周辺地区】

- 港や山手の丘からの魅力的な眺望に配慮した景観形成を目指します。
- ゆとりと賑わいのある歩行者空間の創出による良好な景観形成を目指します。
- 海辺から街を眺める眺望点の創出や、港に面した建物の設えなど、港からの眺望を意識した街並み形成を目指します。
- 街中から港や歴史的建造物が見通せる景観形成を目指します。
- 歴史的建造物を景観資源として保全活用し、開港以来の歴史と文化の蓄積を感じることができる景観形成を目指します。
- 商店街などの活発なまちづくり活動と連携した景観形成を目指します。
- ライトアップなど、都市空間の演出による魅力的な景観形成を目指します。



■高密度な既成市街地



【駅前・駅周辺】

- ・活気のある街の雰囲気を生かした景観形成を目指します。
- ・街の玄関口として、その街の個性を象徴する景観形成を目指します。
- ・商業的賑わいと調和した秩序ある広告による景観形成を目指します。



【丘の下の既成市街地】

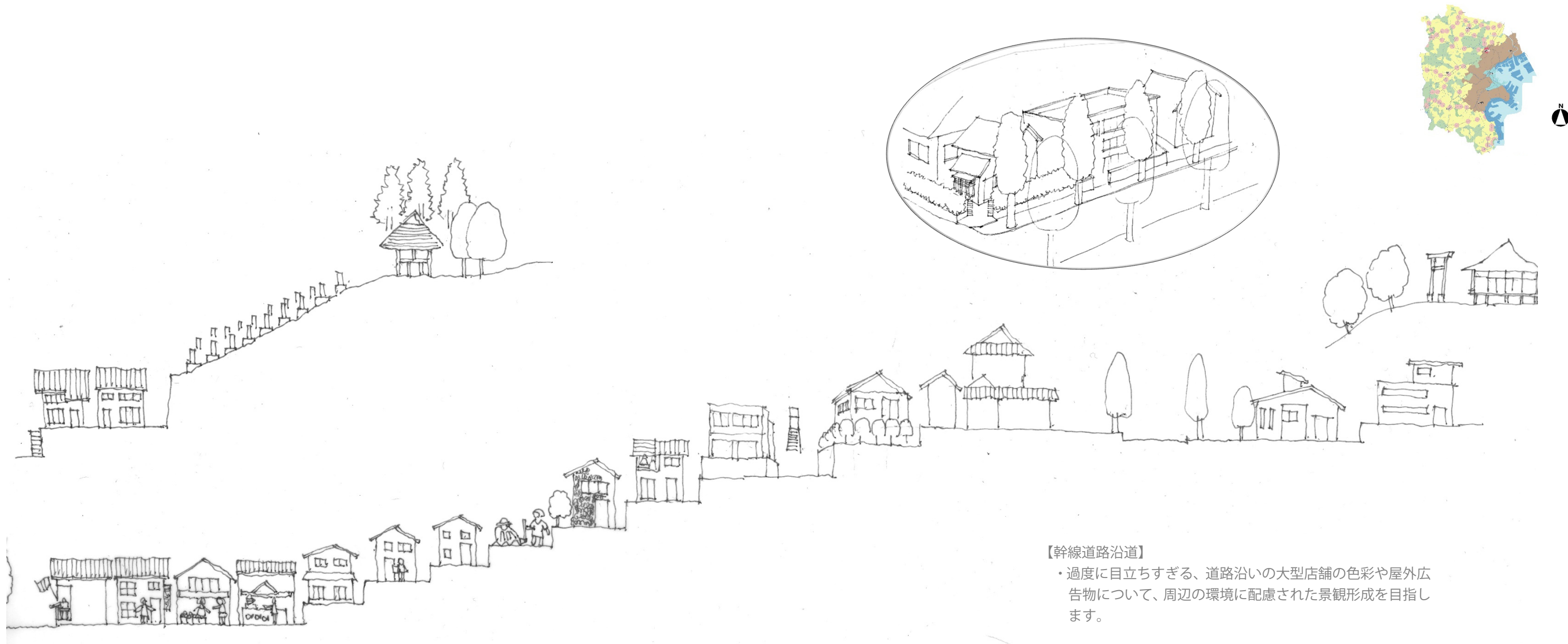
- ・商店街の賑わいや下町の温かみを感じさせる独特な街並みを生かした景観形成を目指します。
- ・建造物をはじめとする多様な歴史的資源に着目して、地域資源や旧街道などの歴史性を読み取り、それを生かした景観形成を目指します。



【河川】

- ・連続したオープンスペース等を地域資源として生かせるよう、その周辺部を含めて良好な景観形成を目指します。





【幹線道路沿道】

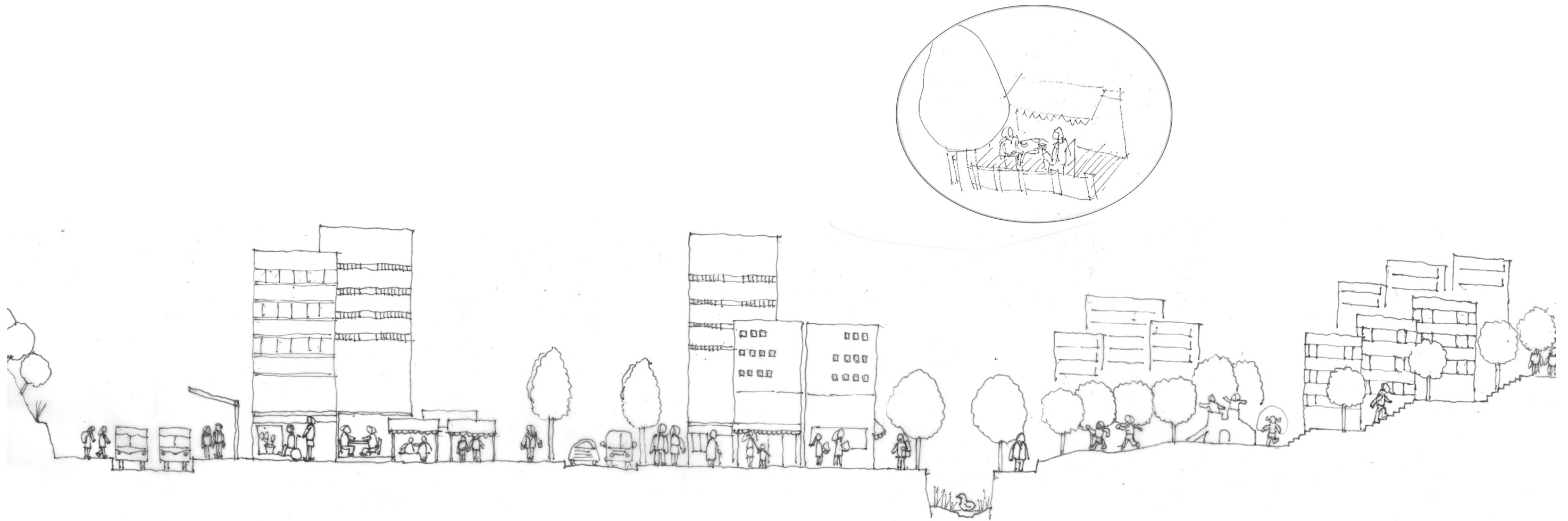
- ・過度に目立ちすぎる、道路沿いの大型店舗の色彩や屋外広告物について、周辺の環境に配慮された景観形成を目指します。



【丘の上の住宅地】

- ・港や市街地、遠景を望む眺望を生かした景観形成を目指します。
- ・魅力的な坂道を生かした景観形成を目指します。
- ・宅地内の庭木などの緑と斜面緑地を生かした緑豊かな景観形成を目指します。





【幹線道路沿道】

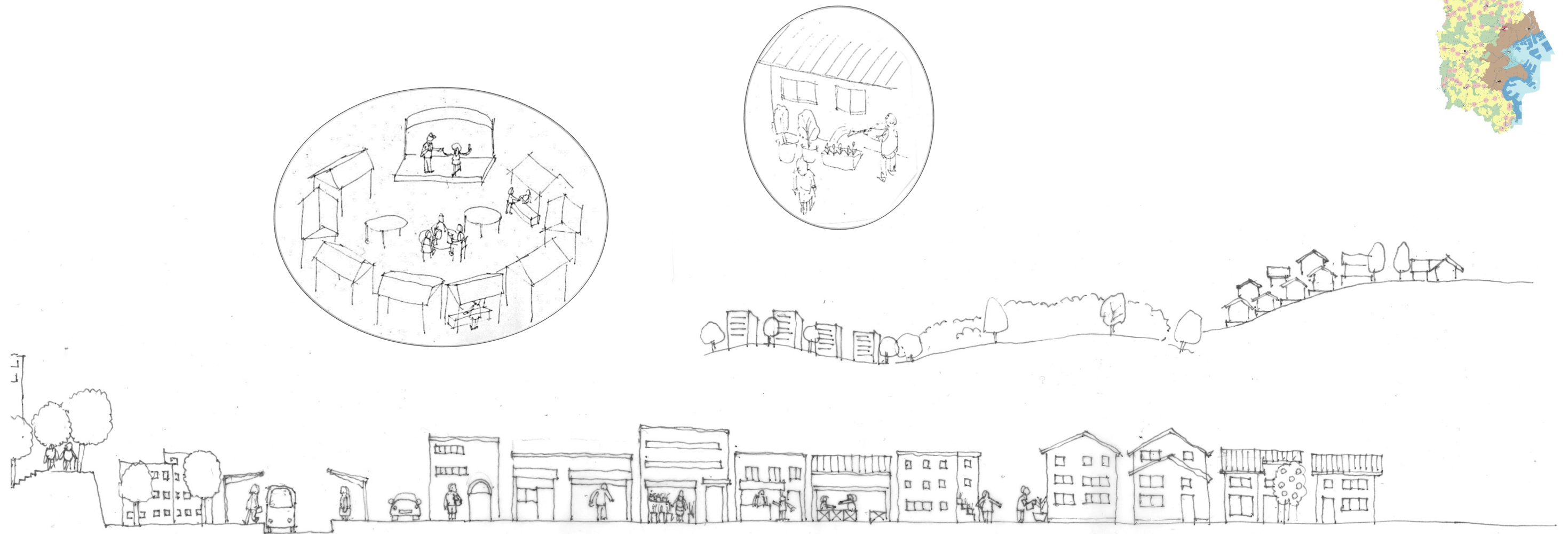
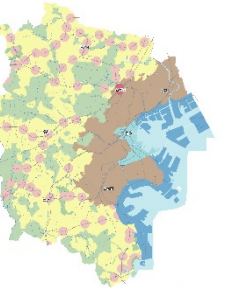
- ・過度に目立ちすぎる、道路沿いの大型店舗の色彩や屋外広告物について、周辺の環境に配慮された景観形成を目指します。



【河川】

- ・連続したオープンスペース等を地域資源として生かせるよう、その周辺部を含めて良好な景観形成を目指します。





【駅前・駅周辺】

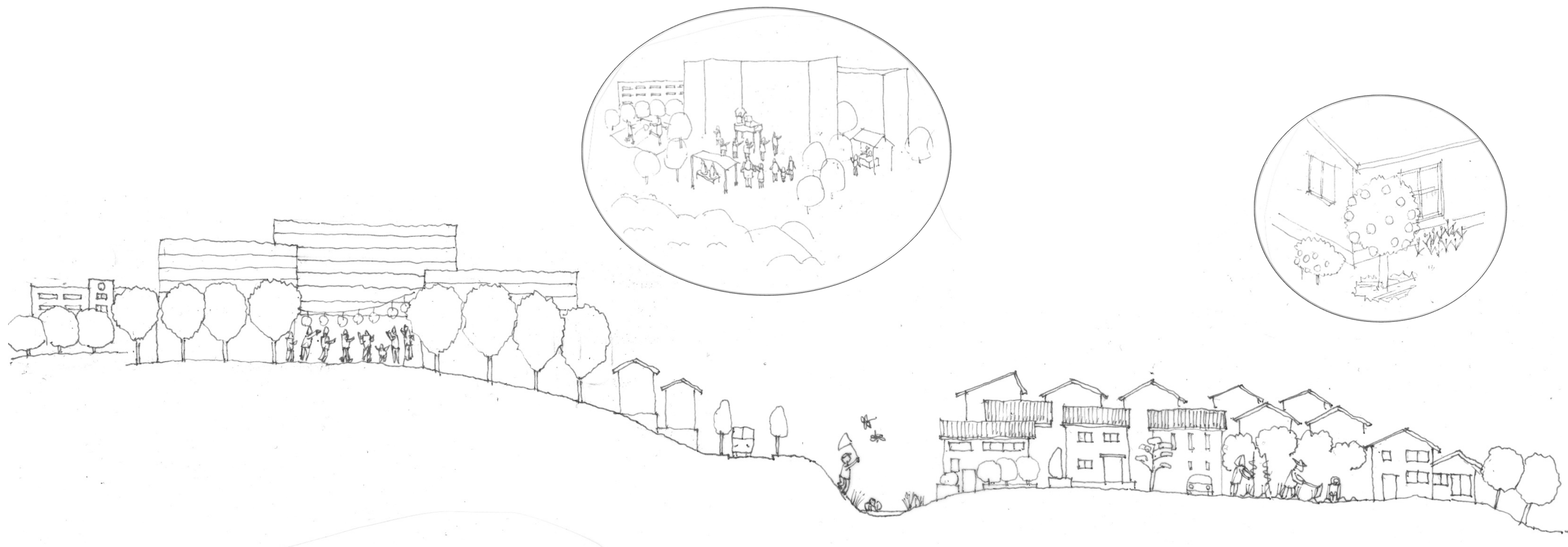
- ・活気のある街の雰囲気を生かした景観形成を目指します。
- ・街の玄関口として、その街の個性を象徴する景観形成を目指します。
- ・商業的賑わいと調和した秩序ある広告による景観形成を目指します。



【金沢八景・金沢文庫周辺地区】

- ・鎌倉文化を受け継ぐ景勝地であり、趣のある街並みなど歴史的景観を生かした景観形成を目指します。
- ・地区の豊かな緑や水辺を生かした景観形成を目指します。





【計画開発による集合住宅地】

- 整った街並みと緑豊かな環境を最大限に生かし、地域コミュニティを育む景観形成を目指します。



【幹線道路沿道】

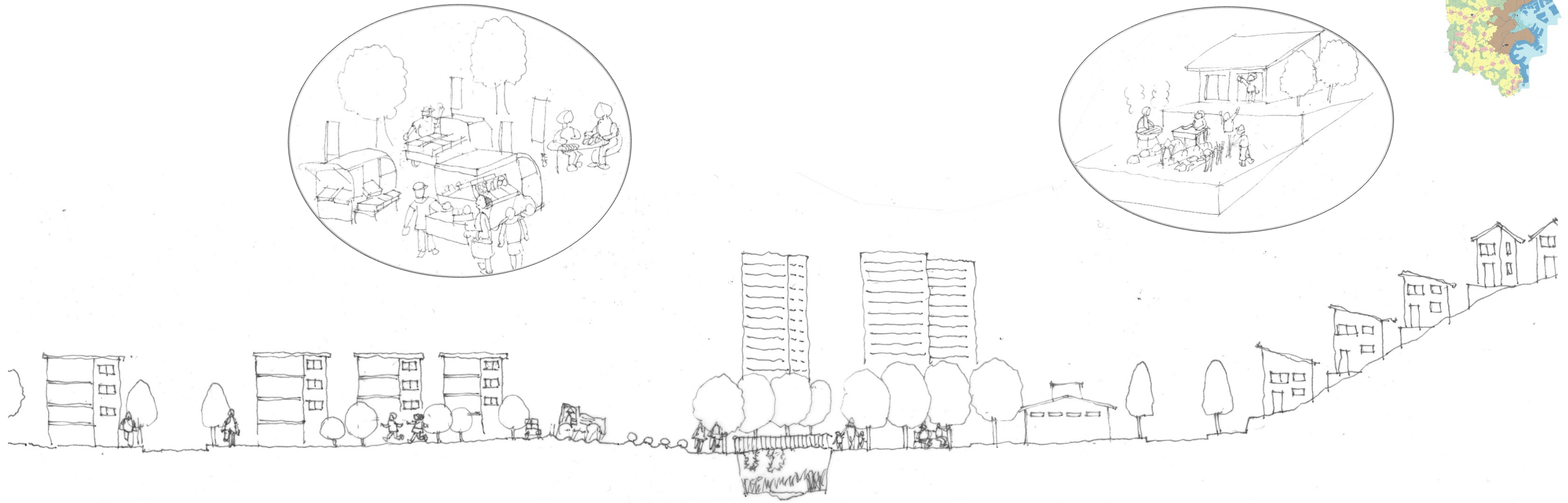
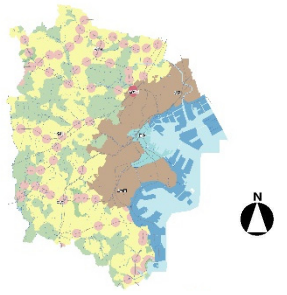
- 過度に目立ちすぎる、道路沿いの大型店舗の色彩や屋外広告物について、周辺の環境に配慮された景観形成を目指します。



【計画開発による戸建住宅地】

- 整った街並みと緑豊かな環境を最大限に生かし、地域コミュニティを育む景観形成を目指します。





【河川】

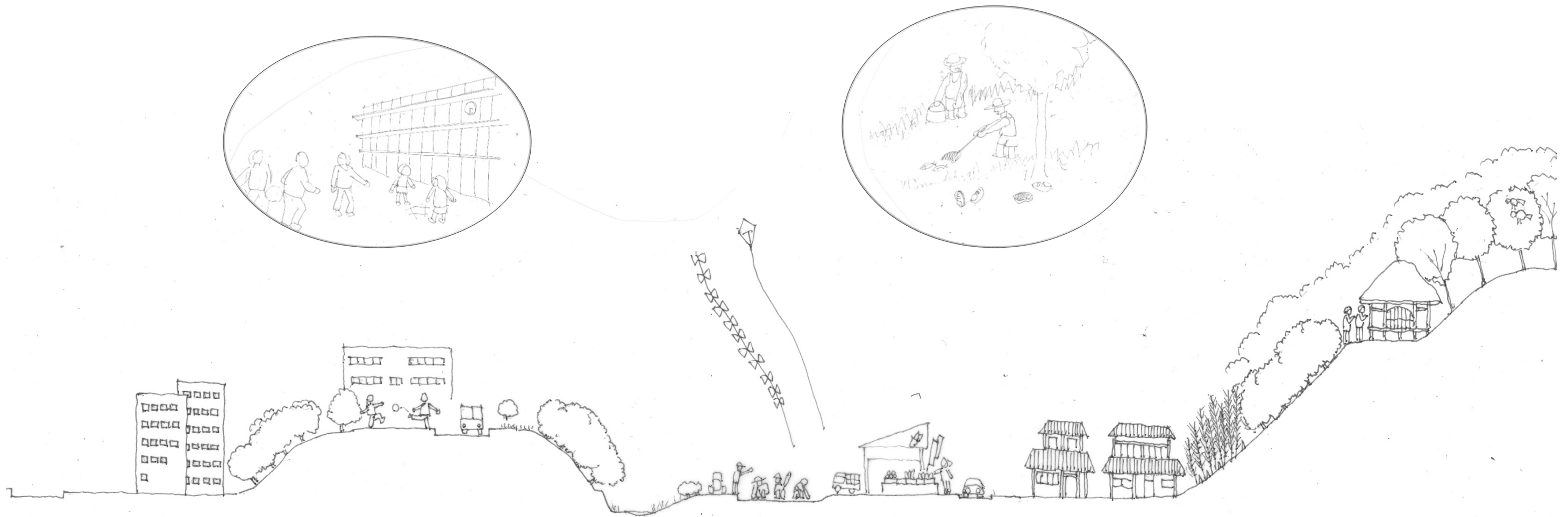
- ・連続したオープンスペース等を地域資源として生かせるよう、その周辺部を含めて良好な景観形成を目指します。



【郊外部の一般住宅地】

- ・街の成り立ちによって異なる地形や敷地、建物の特性に合わせ、快適な住環境と地域らしさをもたらす景観形成を目指します。
- ・建物等の形態の一部や色相などの統一による、街並み景観形成を目指します。





【河川】

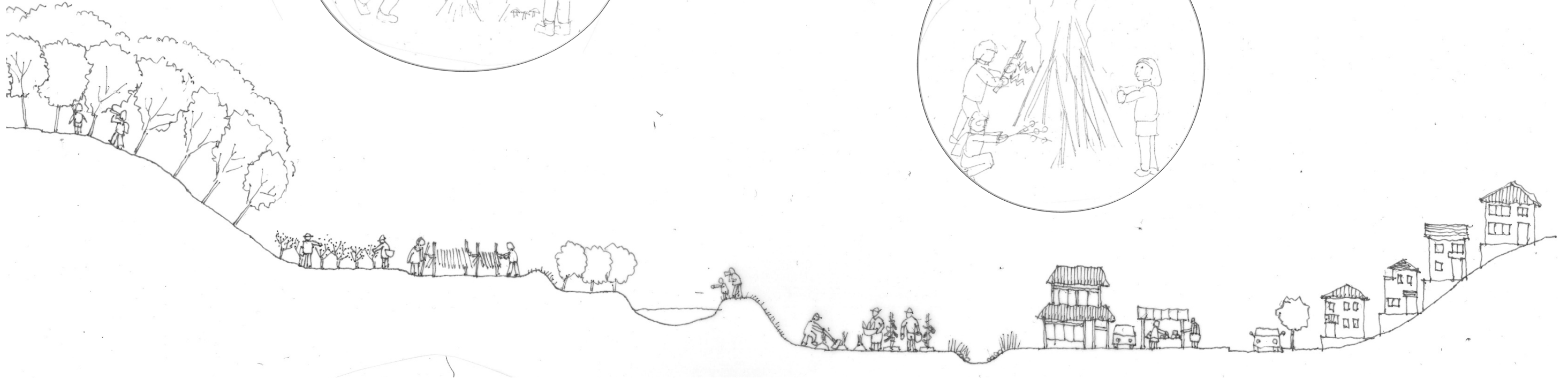
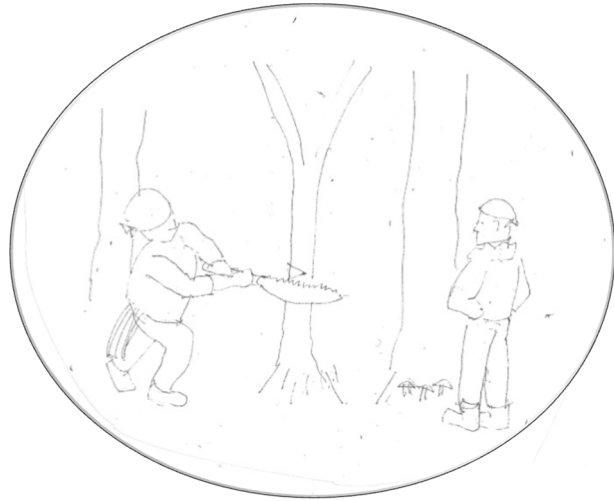
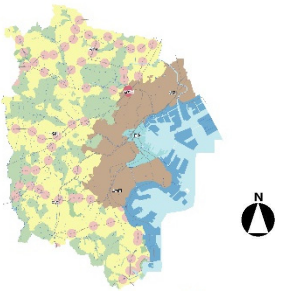
- ・連続したオープンスペース等を地域資源として生かせるよう、その周辺部を含めて良好な景観形成を目指します。



【舞岡ふるさと村周辺地区】

- ・ふるさと村や舞岡公園では、水田や樹林地を一体的に保全し、さらに古民家を移築するなど、積極的に農村の歴史的景観を形成しており、これらの雰囲気を生かした景観形成を目指します。





【まとまった樹林地・農地、大規模公園等】

- まとまった樹林地や農地については、広がりや潤いを感じさせる空間として評価し、景観資源としての活用を目指します。
- まとまった樹林地や農地の周辺地域については、自然的環境と都市的環境の共存が図られた魅力ある景観を目指します。
- 丘陵部からの眺望の対象となる景観資源としての活用を目指します。



【寺家ふるさと村周辺地区】

- 水田や樹林地が一体となり、農村の歴史的景観を守り続けているふるさと村の雰囲気を生かした景観形成を目指します。

